
市立札幌病院 中期経営計画2025
(2025～2030年度)



令和8年(2026年)3月

SAPP_RO

目次

はじめに	2
第1章 計画の策定にあたって	3
1 策定の主旨	3
2 位置づけ	4
3 計画期間	5
4 市立札幌病院の在り方検討会について	5
第2章 市立札幌病院を取り巻く環境	6
1 札幌医療圏・札幌市の医療需要	6
2 医療政策の動向	15
第3章 前中期経営計画の振り返り	17
1 前中期経営計画の評価	17
第4章 市立札幌病院の現状	22
1 市立札幌病院の概要	22
2 市立札幌病院の診療の状況	24
3 市立札幌病院の経営の状況	26
4 医療機関との連携	28
第5章 市立札幌病院に求められる対応	29
1 高度急性期医療の強化	29
2 地域医療との連携	29
3 医療従事者の養成・確保	29
4 高品質な医療の提供	29
第6章 市立札幌病院中期経営計画	30
1 市立札幌病院の使命・役割・基本理念	30
2 中期経営計画期間（2025～2030年度）の取組事項	31
役割1 高度急性期病院として地域の医療機関を支える	31
役割2 地域医療支援病院として地域の医療機関を支える	33
役割3 北海道・札幌市の将来の医療を担う人材を育成する	35
役割4 良質で安心できる医療・サービスを安定的に提供する	37
3 収支見通し	40
4 本計画の点検・評価・公表	44
資料編	45
資料1 用語集	46
資料2 沿革	52
資料3 パブリックコメント	53
資料4 札幌市営企業調査審議会病院部会	56

はじめに

市立札幌病院は、公立病院として、救急医療、周産期医療、精神医療、感染症医療等の政策的な医療を提供するとともに、33の診療科を擁する基幹病院として、重症患者に対する急性期医療を中心に、他の医療機関では対応の難しい合併症を持った患者への治療等にも積極的に取り組んでまいりました。

また、地域医療支援病院として、他の医療機関との連携のもと、地域完結型医療の構築に努めてきたところです。

しかしながら、少子高齢化による人口構造の変化や医療ニーズの多様化など、医療を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。市立札幌病院においても安定的な医療提供体制の構築により、地域の医療体制を確保するという公立病院の役割を果たすため、令和元(2019)年度から6年間の中期経営計画として「市立札幌病院中期経営計画」を策定し、経営健全化の取組を推進してきました。

その結果、令和元(2019)年度には経常収支の黒字化を達成しましたが、令和2(2020)年度以降は、新型コロナウイルス感染症に対して、未曾有の状況にいち早く対応したものの、新型コロナウイルス感染症以外の一般診療の制限を余儀なくされました。

近年、医療制度改革や新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による影響のほか、物価高騰や労務単価上昇と比べて診療報酬が上がっていないことから、病院経営や医療提供体制の維持が一層困難になっています。こうした状況下で、感染症医療、周産期医療、小児医療などの地域に不可欠な医療提供を続け、地域包括ケアシステムの一翼を担うために努力を重ねてきました。

このたび、医療の質のさらなる向上と将来に向けた経営の改善を両立させ、市立札幌病院が掲げる、市民のために高度急性期病院の役割である「最後のとりで」として地域の医療機関を支えるという使命を果たすため、令和7(2025)年度から6年間の「市立札幌病院中期経営計画」を策定しました。本計画では、地域医療の質を一層高めるとともに、経営の効率化を図り、持続可能な病院経営の実現を目指します。

今後も、市立札幌病院が地域において担うべき医療をより多くの患者に提供できるよう、病院に勤務するすべての職員が一丸となって努力してまいります。

令和8(2026)年3月

札幌市病院事業管理者
西川 秀司

